

べんどのならびにあまごぜんごしよ
弁殿並尼御前御書

御書新版 1635 1行目〜3行目
御書全集 1224 3行目〜5行目

だいろくてん まおう じゅうぐん 戦
第六天の魔王、十軍のいくさをおこ
して、ほ けきよう ぎようじや しようじ かい
法華經の行者と生死海の海中に
して、どう ごえど 取
同居穢土を、とられじ、うばわ
んとあらそう。 にちれん 相 当
日蓮その身にあいあた
りて、たいへい 起
大兵をおこして二十余年なり。 にじゅうよねん
にちれん いちど 退
日蓮、一度もしりぞく心なし。 こころ

語句

だいろくてん まおう
第六天の魔王

よっかい だいろくてん
欲界の第六天にいる他化自在天のこと。人々の成仏を妨
げる魔の働きの根源。

どうごえど
同居穢土

しやば せかい げんじつ せかい
娑婆世界、現実の世界のこと。迷いの凡夫（六道）と
それを救済する仏・菩薩等の聖人（四聖）が同居する、
煩惱と苦にまみれた世界。

通解

だいろくてん まおう じっしゅ 魔の軍勢を
第六天の魔王は、十種の魔の軍勢を
もち いくさ お
用いて戦を起こし、法華經の行者を相
手に、しようじ くる 海のなか 中で、凡夫
と聖人がともに住んでゐるこの娑婆世
界を “取られまい” “奪おう” と争つて
ゐる。日蓮は、その第六天の魔王と戦
う身に当たって、大きな戦を起こして、
二十数年になる。その間、日蓮は一度
も退く心はない。

じゅうぐん
十軍

しゆじゆ ぼんのう 魔軍として10種に分類したもの。①欲②憂
種々の煩惱を魔軍として10種に分類したもの。①欲②憂
愁（憂えること）③飢渴（飢えと渴き）④渴愛（渴きに
例えられる妄執）⑤睡眠⑥怖畏（怖れること）⑦疑悔
（疑いや悔い）⑧瞋恚（怒り）⑨利養虚称（利を貪り、虚
妄の名聞に執着すること）⑩自高蔑人（自らおごり高ぶり、
人を卑しむこと）が、『大智度論』巻15で挙げられている。